

日本語・英語要旨

想像の共同体としての中華帝国
— 儒教思想の展開の観点から —
福谷 彬

「想像の共同体」(imagined communities)とは、中国生まれのイギリス人の政治学者ベネディクト・アンダーソン(Benedict Richard O'Gorman Anderson, 1936～)が、その主著『想像の共同体』(1983)の中で、ナショナリズムの歴史的起原を説明する際に用いた概念である。本発表は、この「イマジンド・コミュニティ」論を中国研究においてどのように活かすことができるか、その射程を検討することである。

具体的には、ナショナリズム発生以前の中国の伝統的な世界観を、平岡武夫(1909～1995)が『経書の成立』(1946)において提唱した「天下の世界」論に求め、「想像の共同体」論と比較し、更にこの儒教的世界観を発展させた思想家として日本の浅見綱齋を取り上げ、儒教が持つ世界観の特徴とその現代的可能性を論じたい。特に綱齋の説を挙げるのは、綱齋の主張にナショナリズムを超える論理が含まれると考えるからである。

人格化する国家と国家化する感動
— 『感動中国』の中の意識形態と日常実践 —
馬 嵐(MA Lan, ま・らん)

現代社会において、大衆メディア、特にテレビは国家意識形態と集団文化を形成する重要な役割を担っている。『感動中国』は中央電視台が力を注いで製作した看板番組として、ここ十年来儀礼化しつつあり、「年度人物」などの儀礼に関連した言葉を流通させることを通し、「感動」という個人的感情を媒介に、もっとも自然な雰囲気の中で人々の親近感を喚起し、また様々な修辭句を用いて、そこに現れた自然な感情を民族と国家全体の自尊心と帰属感へと昇華させ、国家を人格化させることにより国家の「姿」を再現している。近年の演出で注意をひく点は、登場する人物がますます一般的な立場の人々や家庭生活の位相で人々を感動させる「小人物」へと移行し、一種の国民教育の舞台が構築されている点であり、国家意識形態がその場を借りて絶え間なく人々とその行動の中へと入り込み、親近感を利用して極致にいたる方法により民族国家のイメージを構築し、国家意識形態の価値観と個人的感情の高度な統合を実現している。

(翻訳：中山大将、巫靚)

残留日本人とは誰か
—北東アジアにおける境界と家族—
中山 大将

本ワークショップは、2010年の京都エラスムス計画から続く京大と南京大の若手研究者の交流である。本報告では、本ワークショップまでの道のりと、報告者が京都大学文学研究科 GCOE 研究員として参加したエラスムス計画による中国共同調査で得られた知見についてまず述べる。

次に報告者が京都大学文学研究科 GCOE 研究員として始めた「サハリン残留日本人」研究の現在を解説する。報告者の調査によれば、約 1,400 人の日本人がその時点でサハリン島に存在していた。彼らは何者だったのだろうか。また、冷戦後に民間人によって始められたこれらサハリン残留日本人の帰還運動に対して、日本政府はなぜ「サハリン残留日本人など存在しない」と言い放ったのだろうか。本報告ではこれらの問いに答えるために、日本政府の公文書や各種団体の資料およびサハリン残留日本人へのインタビューを用いる。

How political capital contributes to a stratified rural China:

based on investigation in Z village, Anhui province, China

柴 向南 (CHAI XiangNan, ちやい・しあんなん)

[Abstract] Inter-convert among different kinds of capital, based on Bourdieu's capital theory, is possible in reality. As for rural China, political capital, an important role under current CCP political system, could bring about economic and cultural capitals for capital owners. Always, elites on political as well as public affairs in rural areas are more able to be political capital owners. And they can earn more money than the average villagers inasmuch as more chances to achieve economic capital. Hence, such capital-chain brings about an economic stratification in rural China. In addition, as an outside cause, current process of urbanization in China exerts its influence on such stratification through unequal distribution of political capital. How to solve this stratification issue? It seems that, the famous Huaxi way, towards a more equal rural society with increase of wealth, can be, at least superficially, a right solution. However, in fact it can not unfortunately. The only way is to build a modern public sphere in rural China to defend the tremendous influence of political capital. However, under the current political system, there exists a dilemma in front of rural China.

[Key words] Empirical research; Rural China; Political capital; Economic stratification; Huaxi Model; Public sphere

温州龍船と地方社会変遷の民族誌研究
呉 天躍 (WU TianYue, う・ていえんゆえ)

本民族誌は中国東南沿海地方の温州における伝統龍船と現代的なスポーツ龍船を研究対象とし、それらを清末民国期から現在にいたる長期の歴史的過程の中において考察し、とりわけ 1980 年代改革開放以降の変化に重点を置く。オーラルヒストリーを基礎として龍船の沿革、伝統的龍船の一般的様式、巨大な儀礼経済や異なる社会的役割による文化実践等の角度から「深度遊戯 (deep play)」を描くことを試み、限られた視野ではあるが、地域社会文化の変遷を描出する。本報告では、社会集団の龍船をめぐる長期の相互関係や実践およびその実践の背後にある文化的意義と深層構造に重点を置く。最後に温州龍船民族誌の中の経験的発見を総括する。つまり伝統龍船とスポーツ龍船とは異なる「地域性」を構築しているのである。一部の地方龍船が民俗からスポーツへといたった「文明」的過程から、「地域性知識」の方法と理論の意義がさらに明らかになった。

(翻訳：中山大将、巫靚)

**Emerging Chinese Public Sphere in Multi-ethnic Malaysia:
A Case Study of the Hungry Ghost Festival and Philanthropic Activities**
櫻田 涼子 (SAKURADA, Ryoko)

The Hungry Ghost Festival is the most popular folk ritual festivity practiced in Chinese communities in Southeast Asia. Traditionally, Chinese have considered the seventh month of the Chinese lunar calendar as the 'ghost month' in which ghosts, spirits, and deceased ancestors are believed to migrate from the lower realm of the dead to visit their living descendants who pay them homage and request their protection.

This short paper is based on fieldwork conducted in Johor, Malaysia in the summer of 2012. By referring to brief ethnographic data of the Hungry Ghost Festival as practiced in a Chinese community of an average modern housing estate located in a Johor suburb, I will discuss how this extremely ethnic and intimate ritual event came to acquire significance as a public celebration for its support of community and philanthropic traits.

毛沢東時代における労働者の婚姻
—洛陽の工場労働者の研究—
方 莉琳(FANG LiLin, ふぁん・りりん)

社会主義工業化を進める計画経済時代において、労働者階級は中国の指導階級とされ、「時代の寵児」であった。この身分的位置づけは労働者の生活にも反映し、労働者の個人的結婚生活に対しても大きな影響を与えた。本報告では河南省洛陽市の工場労働者の婚姻に関する研究を通して、毛沢東時代の労働者の結婚選択における以下の特徴が明らかになった。第一に、職業には貴賤があり、国家が「職業に貴賤なし」と唱導しても、労働者の結婚選択においては、やはり労働者が優先され、農民が最後という選好から、幹部が優先され、農民が最も好まれないという選好へと変わっていった。第二に、地域差別があり、国家が唱導する「四海一家、革命情誼（全国がひとつの家族であり、革命の絆で結ばれている）」とは異なり、労働者の婚姻においては、地域による選り好みや都鄙の差別がきわめて明確であった。第三に、政治が注意を怠り、毛沢東時代においては、政治こそが一貫して最も重視される要素とされ続けた。しかしながら、労働者の結婚選択において、政治は決して最も重要な役割を担ったわけではない。このことからわかるのは、毛沢東時代の労働者の婚姻選択は決して国家の主流である思想の影響を受けたわけではなく、旧態依然とした価値観に従っていただけであった。

（翻訳：中山大将、巫覡）

個人的な移住における移住先選択要因
—南京在住日本人を事例に—
松谷 実のり

グローバル化の中で日本人の海外への移住者数は拡大し、その移住形態は多様化している。本報告では南京という、移民が多く集まるグローバル都市ではないが、一定数の日本人が居住している場所に焦点を当てる。そして南京に居住する日本人のうち、企業が派遣する駐在員ではなく、個人的に移住した人々に注目する。彼らを滞在目的によって類型化し、南京を移住先に選択した理由を概観することを通じて、比較的小規模な都市への移住者に見られる特徴を明らかにする。それにより、グローバル化の影響が小規模な都市に対してどの程度の影響を及ぼしているのか、またそれに伴って日本人の移住の多様化がどのように進んでいるのかを考察する。

誰がより多くのリスクを負うのか？
—社会経済的地位と環境リスク配分の差異—
聶 偉 (NIE Wei, にえ・うゑい)

西洋の環境的公正に関する理論は、計量的研究を基礎として、環境リスク分配が偏在していることを実証し、社会経済的地位と環境リスクの間の相関性を強調しているが、我が国では計量的実証研究が発展しているとは言えない。本研究は、環境的公正に関する理論に立脚し、アモイ（廈門）のゴミ処理についての実証的調査を事例として、住民の社会経済的地位と環境リスクの相関性を探る。研究によって明らかになったのは以下の点である。第一、西洋の研究成果と一致しているのは、環境リスクがまったく公正には分布しておらず、異なる社会経済的地位を持つ集団間で、環境リスクは社会経済的地位に従って分配されており、環境リスクと富裕さには逆の相関がみられる。第二、西洋社会、特にアメリカで人種、性別、教育の環境リスク分配に対する影響が強調されているのと異なり、我が国の環境リスク分配に対する性別や民族、教育の影響は統計的には顕著には見られない。第三に、我が国の農村住民は都市住民に比してさらに多くの環境リスクを負っており、現在の都市農村間の環境リスク分配の不公平問題が突出していることが明らかになった。

キーワード：社会経済的地位、環境リスク分配、ゴミ処理、環境的公正

（翻訳：中山大将、巫靚）